

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【交流】、【女性・若者の力】

1. 都道府県、市町村	長崎県 <sup>まつうらし</sup> 松浦市
2. 事業者名	NPO法人体験ネットワーク松浦党、松浦体験型旅行協議会
3. 取組みの名称	松浦党の里ほんなもん体験
4. 取組概要等	

概要

長崎県北松浦半島地域において、修学旅行生の農家・漁家への民家泊受入による自然環境や農林漁業等の生業に根ざす生活文化そのものを活かした体験型観光「松浦党のほんなもん体験」を展開し、交流人口の拡大による地域経済の活性化に取り組んでいる。

ある修学旅行のアンケートでは、ホテルではなく民家宿泊先の夕食が圧倒的に美味しかったという結果が出ており、生徒達は「宿泊先の魚や野菜がとても美味しかった」「帰りたくない」と口々に語り、保護者からは「普段会話のなかった子供が、修学旅行の思い出を楽しそうに語ってくれ、旅先で教わった刺身を作ってくれた」などの喜びの声がたくさん届いている。また、教師からも「新学年になって新学級の生徒との信頼関係を築くには通常一学期を要するのに、たった一晩であれほど親しくなれるとは。」と体験民泊の高い効果に驚きの声があがっている。

地域の生活に根ざした「ほんなもん」＝「ほんもの」の体験を提供し続けるため、民間主導のコーディネート組織と、農家・漁家の担い手からなる13の受入組織が互いに信頼のネットワークを形成し、全国に類をみない組織体制を確立している。このような信頼関係の中、農家や漁家を中心とした多くの女性や高齢者が参加しており、農家・漁家ならではの経験やノウハウを活用する機会の創出につながった本取組を高く評価している。

人口280名の青島では、年間1,000名を超える修学旅行生が訪れ、島の活性化に大きく寄与しており、その効果はエリア内の農山漁村地域全体に及んでいる。

活動の規模

項目	H14	H15	H16	H17	H18
来客者数		1,000	3,300	4,500	10,000
解説	単位：人（修学旅行生受入数）				

活用している地域資源

- ・長崎県北部の北松浦半島とその周辺の島々からなる地域（松浦党の里）には、島や半島ならではの变化に富んだ自然や多様な生業が残っており、これらの自然環境や生業に根ざす生活文化そのものを活かし、農林漁業を中心とする90種の体験プログラムを有している。
- ・長崎県は屈指の水産県であり、中でも本地域は中心的な漁場に面している。全国的には漁家の数は減少していると言われるが、本地域は比較的多くの漁村が点在している。
- ・小規模兼業農家が多いため、昔ながらの農村の営みが多く残っており、野菜・米は自給自足であり、家の造りも牛小屋などを昔のまま残していることが多い。

### 地域活性化のポイント

民家泊や体験受入を通して、生徒達が感動し、生き活きとした表情に変わり、涙ながらに「帰りたくない」と語る姿に出会うことで、青少年の健全育成に自ら役立っているという実感、生きがいを持つことが出来、社会貢献の喜びと誇りを得るようになった。

農家・漁家である担い手が、体験型観光で自らの経験・ノウハウを伝授することを通じて、自信や誇りを取り戻した。

経済的な面では、担い手である漁家の一人は、「体験型観光で得た昨年の収入を合計したら、とても本業のおかれた状況で水揚げできるものではなく、この事業を大切にしなければならない」と語っており、地元農漁業が体験型観光と同化しつつあるほど根付いてきている。

担い手達は、青少年の「生きる力」を育むという社会貢献に誇りを持ち、満足しながら農漁業を継続できることを心から喜んでいる。

### 事業の今後の展開方向

- ・信頼性の高い体験を提供し続けるため、関係者に安全・衛生・防火講習を義務づけ、保健所や消防署の協力を得て指導を徹底していく。また、担い手に対して、民家泊や体験学習の理念、手法、技術などについての指導の徹底を図ることとしている。
- ・平成19年2月に「第4回全国ほんなもん体験フォーラムinながさき」を開催し、体験型観光地の適地として全国に強くアピールしていくこととしている。
- ・これらの活動を通じて当面年間3万人の受入を目標に、日本一の体験観光地を目指している。

